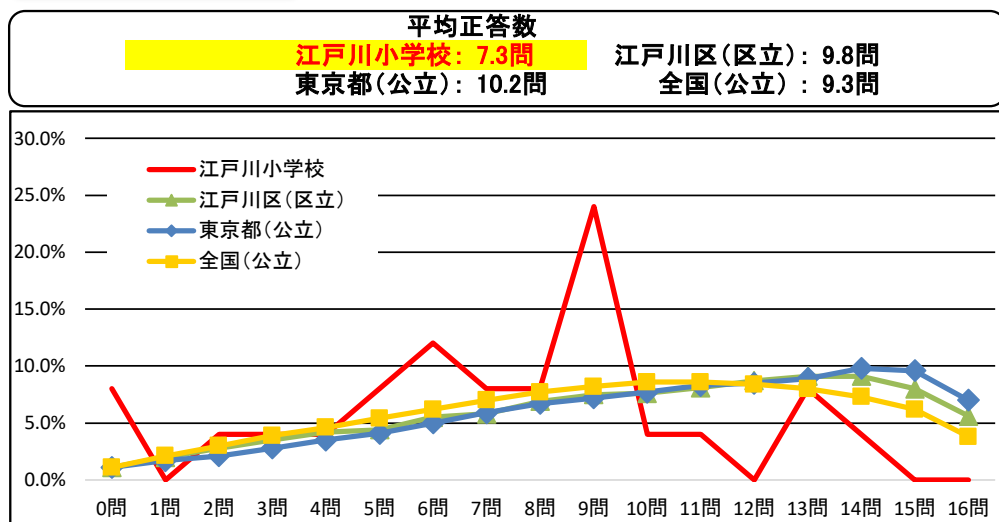


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川小学校

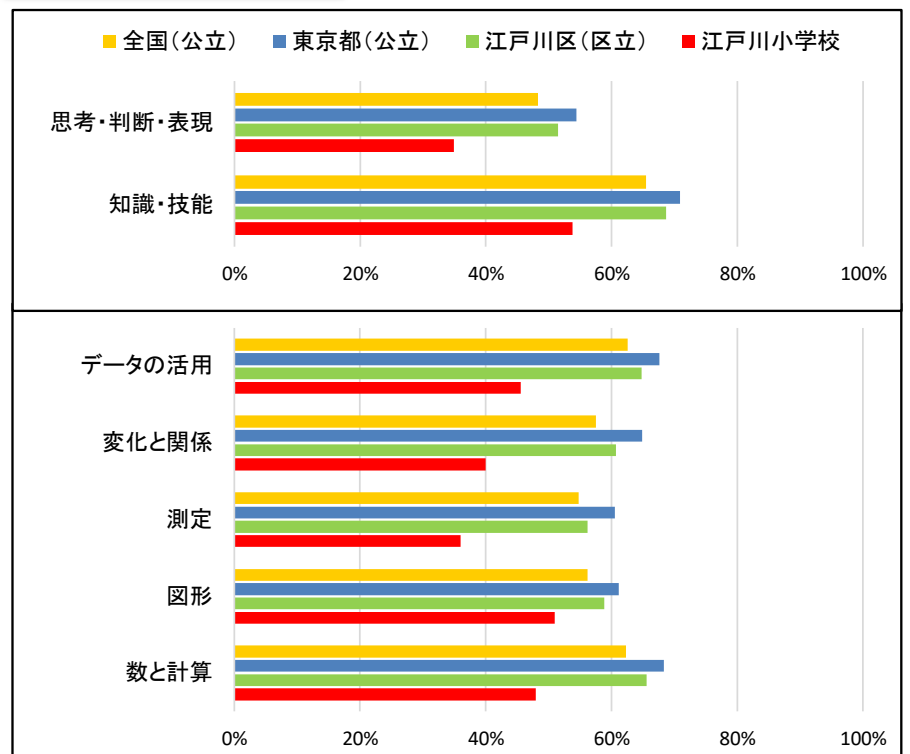
正答数分布



【平均正答率の差】

江戸川小学校	46%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-18.0

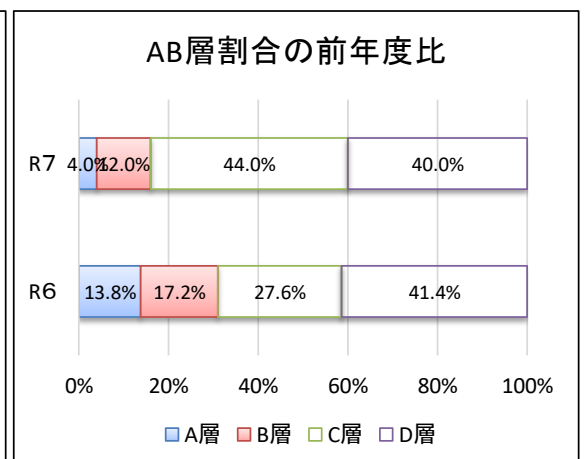
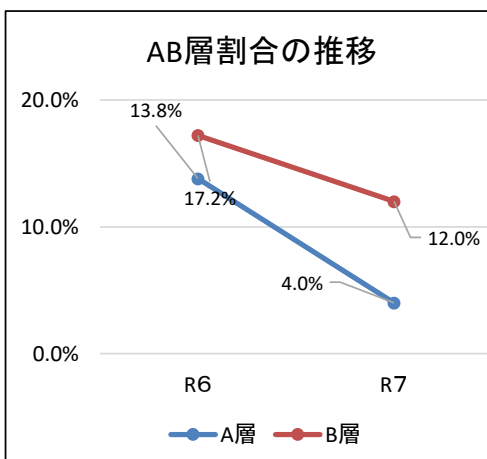
「領域別」の結果



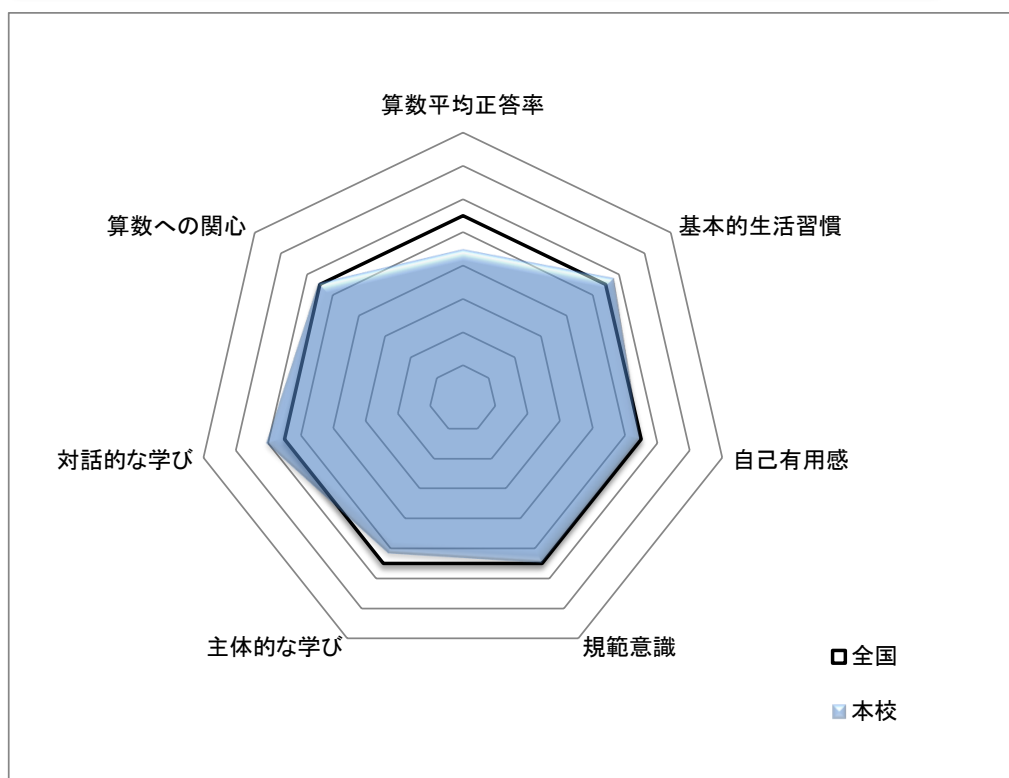
四分位における割合（都全体の四分位による）

算数	上位 ← → 下位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
江戸川小学校	4.0%	12.0%	44.0%	40.0%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

全体的に本校は全国平均とほぼ同水準で、大きな差はない。特に「基本的生活習慣」と「規範意識」は全国をやや上回り、生活面や学習態度の基盤が整っていることがうかがえる。一方で、「算数平均正答率」「主体的な学び」「対話的な学び」は全国平均をやや下回り、学力面や学ぶ意欲の面で改善の余地がある。総合的には、生活習慣や意識面が整っている一方で、学びの意欲と学習内容の確実な理解が課題である。

《家庭・地域への働きかけ》

生活習慣や規範意識の面で全国平均を上回り、家庭での支えが根付いていることが強みである。今後は、学びに向かう意欲や基礎学力の定着が重要で、家庭では、日々の中で「どう考えたのか」と問いかけ、考える楽しさを育むことが望ましい。子どもが努力を実感できるよう、過程を認め、励ます言葉をかけることが効果的である。学校と家庭が一体となり、主体的に学ぶ力を育てていくことが成長を支える鍵となる。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
算数におけるAB層(上位層)の割合は、令和6年度が31.0%(A層13.8%、B層17.2%)であったのに対し、令和7年度は16.0%(A層4.0%、B層12.0%)と減少している。一方、C層・D層の割合は増加しており、特にC層は27.6%から44.0%に上昇している。このことから、上位層の育成が課題であり、基礎・基本の定着に加え、思考力や応用力を伸ばす指導の強化が求められる。具体的には、少人数グループでの基礎問題演習や家庭学習支援の充実、学習の定着度確認テストの活用などが効果的であると考え。また、AB層においては発展問題演習に取り組むことにより、学習意欲を高めつつ、学力格差縮小も図る必要がある。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

授業改善を中心とした協働的な研修体制の充実が重要で、特に「主体的・対話的な学び」を意識した授業づくりに向けて、教員同士が授業を公開し合い、相互に意見を交換する機会を増やすことで、指導技術の共有と実践力の向上していく。また、算数においては思考過程を重視した発問の工夫や、児童の多様な考えを引き出す指導法を磨いていく。さらに、校内研修に加えて外部講師による専門的助言を取り入れ、教員一人一人が学び続ける姿を子どもに示し、組織全体で授業力を高めていくことで、児童の学習意欲と学力の両面に好循環が生まれると考える。

・基礎学力の保障

基礎学力の保障に向けて、全ての児童が「わかる」「できる」を実感できる学習環境づくりが重要である。まず、授業では単元の導入時に既習内容を活用した振り返りを行い、知識のつながりを意識させることが効果的である。また、習熟度に応じた個別・少人数指導を取り入れ、つまずきの早期発見と補充を徹底することが必要である。家庭学習面では、毎日の計算・漢字などの基礎練習を定着させるため、学習カルテを活用し、学びの見える化を図る。さらに、ドリルパークやオンライン教材を活用することで、個々の到達度に応じた反復練習を可能にし、苦手克服を支援する。

・学習習慣の確立

学習習慣を確立するには、日常的な学習のリズムを児童に定着させることが重要である。授業内で「ノートの書き方」「計算の手順」など基本的な学習のルールを繰り返し指導し、習慣化させる。家庭学習では、ミライシードを活用して自主的な学習能力を育てる。また、タイムアタック(計算タイム)などの定時活動を設定し、学習の開始と終了の流れを身に付けさせる。教師や保護者が定期的に振り返りや声かけを行うことで、児童が自ら学ぶ意欲を持ち、継続的に取り組む態度を養うことができる。これらの取り組みを組み合わせることで、学習習慣の定着を図る。

・AB層の育成

AB層の育成を進めるには、基礎が定着している児童に対して、思考力や応用力を伸ばす学習機会を提供することが重要である。授業内では、発展問題や課題解決型学習を取り入れ、個々の理解度に応じたステップアップを図る。また、少人数での対話的な学びや発表を通じて、考えを整理し表現する力を養う。さらに、家庭学習や自主学習で応用問題や自主研究に取り組む機会を設け、達成感を通じて学習意欲を高める。定期的に理解度確認や個別フィードバックを行い、課題の定着と次の挑戦への意欲を促すことで、AB層の学力向上と持続的な育成を図ることができる。